

たんぼ



令和8年（2026年） 7月

発行：広島市こども療育センター地域支援室

所在：広島市東区光町二丁目15番55号

TEL：082-263-0683

FAX：082-261-0545

「巻頭言」

広島市こども療育センター 管理課長
山本 孝治

4月から、こども療育センター管理課長に着任しました山本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。センターでこどもたちの姿に触れるたび、小学6年と4年の息子たちの幼い頃を思い出しています。

赤ちゃんのころは、外出のたびに抱っこもベビーカーも嫌がって大泣きし、ようやく寝た隙に妻と食べたファミリーレストランのランチに、とても幸せを感じました。

長男は幼稚園のお遊戯会で友だちとけんかをして、会場を泣きながら飛び出したこともありましたが、卒園式では最後までやり遂げ、その姿に成長を感じました。

次男は夜中に「右耳にちっちゃいブロックを入れたら取れなくなった」と言い出し、右耳を覗いてもブロックは見えなかったので、小児救急医療電話相談に問い合わせ、「すぐに夜間外来へ」と助言をいただき、外来を受診したところ、反対の左耳から見つかりました。「もう詰めたらいけんよ」と優しく言われた次男が、えへへと照れた笑顔が忘れられません。

ほかにもたくさん、やんちゃな思い出がありますが、そんな二人もすっかり大きくなり、ずいぶん手もかからなくなりました。今も週末には一緒に出掛け、買い物や映画、公園遊びや魚釣りなどを私も一緒に楽しんでいます。子育てを通して、かつての自分や親の気持ちに気づかされる日々です。

子の成長とともに、やがて親子で過ごす時間も減っていくと思うと少し寂しさもありますが、今この時間を大切にしたいと思っています。

こうした思いを胸に、日々センターでのお仕事に取り組んでいます。

市が「広島市こども・若者計画」で掲げる『すべてのこども・若者の現在（いま）と将来（みらい）を社会全体で支える、こども・若者と子育てに優しいまち“ひろしま”の実現』に向け、微力ながら力を尽くしてまいります。

— 目次 —

巻頭言・・・1

愛育園・・2、3

ペアレントメンターについて／福祉機器展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4



愛育園は「児童心理治療施設」児童福祉法第 43 条の 2 に定められた施設です。

登校がしづらい。友達関係がうまくいかない。

家族とうまくいかず荒れてしまう。

人と関わるのに不安が大きい。自分の気持ちを言葉にするのが苦手。

自分の感情をコントロールするのが難しく、イライラが爆発してしまう。

ゲームがやめられない、朝起きられない、生活リズムが整わない などの
生きづらさを抱えているこどもとご家族のための施設です。



愛育園の治療方針

それぞれのこどもに医療的な視点からのアセスメント、服薬等の必要性の判断を行い、心理治療・生活支援・教育の領域からのアプローチを目指します。

生活の場全体が心身の安定や成長につながるよう取り組んでいます。

家庭復帰を目標にしています。

そのため、週末の家庭外泊、年 3 回の長期外泊の期間を組んでいます。

ご家族にも面談に来ていただき、こどもの理解を深めたり、家庭での過ごし方の工夫を一緒に考えていきます。

また、退所して家庭に帰った後も安全で健康な生活を確保できるよう取り組みます。

<寄宿部> 月～金あるいは土まで、園に宿泊しながら生活します。(定員 28 人)

<通所部> 自宅から通います。月～金、1～5 日の利用ができます。(定員 15 人)



スタッフ：園長（精神科医）・副園長・生活職員（指導員・保育士）・心理療法士・看護師

それぞれのお子さんに、生活職員 2 名、心理療法士 2 名（こども担当・家族担当）計 4 名がチームを組んで支援します。

愛育園の生活治療

基本的な日課があります。

午後は曜日ごとに活動が設定されています。

季節を感じられるような行事や子どもたちの企画する外出等のイベントもあります。

隔週～毎週、心理治療も行います。



寄宿部スケジュール

6:30 起床
7:10 朝食
8:40 小・中学生 分級学習
高校生 各自登校
12:10 昼食
13:30 小・中学生 分級学習
/午後プログラム
15:00 おやつ 自由時間
高校生 各自帰園
17:35 夕食
18:00 入浴
21:00 小学生就寝
22:00 中学生就寝



通所部スケジュール

10:00 来所
ひろばで学習
12:10 昼食
13:30 午後プログラム
15:00 おやつ 自由時間
17:00 帰宅

小4 男児 A 君＜寄宿部＞

じっとしておくことが苦手で、授業中立ち歩きや、大声で騒いでよく注意された。小3頃より同級生とのトラブルが増え、学校を休むことが増えた。家では弟と激しいケンカをし、家の財布からお金をとったり、菓子やカードを万引したりした。家族が厳しく叱ってもとまらず、対応に困り、児童相談所に相談。小4の春より寄宿部入所となった。

入園すぐから他児とのトラブルが頻発した。話に向き合えず、暴れたり逃げたりしていたが、時間をおくと気持ちに言葉にできるようになってきた。分級では注意されると教室を飛び出し、登校も渋りがちだったが、まわりの園児が登校しているのに影響を受け、しだいに登校できるようになった。

家族面接では、親の対応の工夫について話し合った。対応を変えると、弟とのケンカで手が出る前に切り替える姿が見られた。A君自身も自分の良い変化を感じて、親子共に自信をつけた。中学校は地元校に進学したいとの希望があり、準備のため小6の冬に退園し、地元小へ戻った。療育センターの外来心理療法はしばらく継続した。

小5 女児 B さん＜通所部＞

小3秋、他児とのケンカをきっかけに学校を休み始めた。腹痛や頭痛を訴え、遅刻・欠席が増えた。

小5に療育センター受診、心理療法を開始。小5夏より通所部の利用開始となった。通園日は週2回とし、週3日は部分登校を目指した。

入園後しばらくは登園渋りもあったが、徐々に登園が安定した。園に慣れた頃から自己中心的な行動が目立つようになり、周囲から不満の声が上がるようになった。担当は自分のふるまいがどう見られるかを伝え、望ましい行動を繰り返し伝えた。周りが見えず突っ走ることが続いていたが、何事にも一生懸命なBさん、と認められるなかでトラブルは減っていった。

家庭では、外で頑張る分、反動のように荒れることが続いた。家族面接の中でBさんの状態を丁寧に共有するうちに、保護者もBさんの心の動きに目が向き、成長を認めたり、Bさん目線での対応を考えられるようになられた。Bさんが家で荒れることも次第に減り、学校の登校も安定していたため、中学入学を機に退園した。



＜北棟 2 階＞

広島市こども療育センター
附属診療所



＜南棟＞

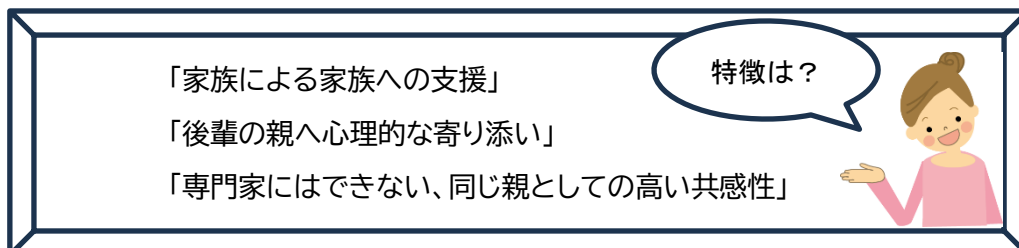
愛育園



愛育園ブログ

～『ペアレントメンター』をご存知ですか？～

メンターとは「信頼のおける相談相手」という意味です。『ペアレントメンター』とは、自らも発達障害のあるこどもの子育てを経験し、かつ相談に関する一定のトレーニングを受けた親を指します。



広島市では、ペアレントメンターによる個別相談会を開催しています。子育ての不安や悩みをペアレントメンターさんに聴いてもらうことができます。

※対象は、こどもが発達障害の診断を受けて間もない保護者の方です。



〔広島市ペアレントメンター事業〕

また、広島市こども療育センター地域支援室では令和8年12月17日に、ペアレントメンターによる子育て体験談（講話会）を予定しています。



〔保護者等支援者研修〕

令和8年度 福祉機器展示体験会 ご案内

日時：令和8年8月29日(土)

9時30分～16時30分

場所：広島市心身障害者福祉センター大体育室・小体育室

*広島市こども療育センター駐車場は利用できませんのでご了承ください。